

第2回部活動地域移行準備委員会議事録

日 時：令和5年1月25日

場 所：虹のプラザ「中会議室」

出席者：本多 諭、金村裕之、今野雅信、阿部雅士、鈴木敦夫、森 進一、遠藤寿紀、
佐々木恵一、安達信、寺寄尚慶、芳賀 清、大場洋一、
小林基流、森 光弥、和田 勉、芳賀智彦、長瀬 将

欠席者：奥山潤一郎、渡會哲夫、三浦崇

事務局	最初に教育長より挨拶申し上げる。
教育長	(あいさつ)
事務局	それでは早速協議に移る。協議の中に意見交換があるが、議事録を録る関係上、マイクを持ってご発言いただくよう御願います。 それでは座長を教育長に御願ひして進めていく。
教育長	前回、来年度から土日部活動はしないとまとめたが、その後国の方でもトーンダウンし、県内でも踏み切れない市町が多いようだ。難しい問題であるので、慌てて動き出すことのないというところも踏まえて今日の会議に臨みたい。ご意見をよろしく御願ひする。 最初に(1)意見交換について、前回お示ししたアンケート結果を基に各団体からご意見をいただきたいと考える。事務局より説明する。
事務局	アンケートについては前回配布済みであるので、説明は割愛する。前回、その日にもらった資料について意見をといわれても難しいとのことだったので、本日の他の資料についても事前に送付させていただいている。不明点などあればさらに説明するので、質問、ご意見を御願ひする。
教育長	各団体にアンケートを持ち帰っていただいてのご意見などあるか。 尾花沢のアンケートだと任意加入になれば部活動をしたくないが44%という結果だったそうだが、大石田のアンケートではそこまででもないようだ。本日も中学校の校長に来ていただいているので、部活動の現状なども踏まえて後ほど意見を伺いたい。 なければ次に進めていく。(2)地域移行の方法について、視点を絞りながら進めていきたい。事務局から説明する。
事務局	まず資料1について説明する。第1回の会議で鶴岡方式という話がでたので、参考にさせていただきながら大石田方式として資料を作成した。こちらは、想定される受入れ団体別に現状や課題点を整理したものとなる。①

	<p>～⑦の課題別、欄外にそれ以外の懸念すべき点を記載し、スポーツクラブ、スポーツ少年団、保護者会、民間、合同部活動と場合分けして記載している。</p> <p>関連するので本配布した資料について説明する。先日、主任指導主事が出席した会議の資料で、近隣3市の取り組み状況について記載されている。読むと3市とも、令和5年度は調整・協議に充て、令和6年度から地域移行を開始するようだ。その中でも若干の差があり、尾花沢市は令和6年度から平日も含めた部活動の任意加入を開始する予定だが、村山市、東根市においては令和5年度から開始するようだ。東根市の資料に記載があるが、中体連の対応が決まっていないため、取り組みできないという状況があるようだ。</p> <p>次ページの新聞記事の写しは、昨年末の記事で国が自治体からの多くの指摘を受け、指針を改めたという記事、その次がNHKの記事で、吹奏楽の全国大会を主催する団体が、いわゆるクラブチームでの出場を認めることにしたという記事、その次の記事はスポーツ庁長官が指針の変更についてインタビューされた記事があったので参考に添付した。最後の記事は福島県会津若松市教育委員会の記事で、紙面だけだと詳細までは分からないが、地域移行によって生じる追加的な費用を生徒に負担させず公費でまかなうという記事。規模の小さい自治体ではなかなかできない判断だが、こういう対応をしている自治体もあるという参考資料に添付した。</p> <p>(2) 地域移行について、ということで、ここではこれを決めないと協議が先に進められないという大方針を3つほど絞ってみたので、ご意見をいただきたい。</p>
教育長	ここまでで各団体からご意見などあるか。
委員	<p>月曜に中学校の役員会を開き、その場で地域移行に関する話をしてみた。保護者の方々は、地域移行についてなにも分からないという状況だった。そういう状況で私の方から第1回の内容について説明したが、いろいろ心配事の意見が出て、例えばスポーツ推薦を目指している生徒にとっては、他の市町村と公平性が失われるのではないかと、他市町村の動向を注視し、足並みを揃えてほしい。休日の活動に教員の指導がなくなるという点で、クラブ等外部の指導員の場合、評価の基準が成績しかなくなるのではないかと懸念が出された。今他の市について説明もあったが、保護者の方が聞いた話だと、東根市は一度全員退部して、部活をするかどうかというのも含めて再度加入するという形を取るそうだ。尾花沢市はプロ選手を招いて、指導を任せるのではないかと話。北村山だけでも対応にばらつ</p>

	<p>きがある。他市町の動向を注視してほしい。</p> <p>小国町では今年度、国のモデル校として指定を受けて取り組んでいると聞いた。そういうところの情報も調べてはどうか。保護者の方へは、令和5年度は大きな変化無く、協議していくということで伝える。</p>
教育長	<p>いただいた意見について事務局どうか。</p>
事務局	<p>いくつか懸念事項についてご意見いただいた。一つは各市町で公平性が保たれないのではないかとという点、これは事務局も懸念していて、例えば今ある部活動をスライドするという一番簡単なケースでも、町内では受入れできない種目がある。一方で山形市や天童市は選べる種目も多いという不公平が発生してしまう。このあたりの解決法も考えていかなければならない課題。</p> <p>来年度の部活動について、県のスポーツ保健課に確認し、教員の手当も従来通り予算化されているので、令和5年度についてはこれまで通りの部活動を行って問題ないとのことだった。</p>
教育長	<p>委員の指摘のとおりで、大石田町だけ先行して取り組んでも、県全体、あるいは全国規模の話である。中体連の資料なども見たが、例えば陸上でクラブチームとはいっても同じ学校のチームなんていう記載があった。他の種目でもこういうことがあると、取り組みはちょっと待ったということになる。あまり先行すると、逆戻りしなければならないことも出てくるかもしれない。村山市や東根市にしても保護者への説明はしていない、つまり内容が固まっていけないということだ。</p> <p>資料にある3つの視点について意見をいただくと方向性も見えてくるのかなと思う。全員加入とするか、任意加入とするかについて、中学校校長から現状などについて聞きたい。</p>
委員	<p>東根市の全員一度退部して再度加入するという話も今初めて聞いた。当校ではそこまでは考えていない。前回は申し上げたが、任意加入とするには、学校規模や部活動数から時期尚早かと考える。令和5年度は今年度と同じ活動をするイメージであり、職員にもそのように説明している。</p>
教育長	<p>大石田町は全員加入となっているが、建前上は任意加入であり、つまり任意加入の中で、全員が加入を選択しているというかたち。ただ今回の任意加入にするか、というのは土日の話であり、またちょっと違ってくる。任意加入にして一つの部活動の人数があまりに少なかったら、活動が成り立たなくなる。アンケートを見るとやりたいという数字が多かったようだが。</p>
事務局	<p>小学校だと部活動にはいたい、中学校だと学外の活動に参加したいとい</p>

	う生徒が多いアンケート結果だった。
委員	任意加入ではあると思う。だが、中学校では水泳やサッカーのように外部で活動している生徒は書道部を受け皿にして活動しているという状況がある。今回を機に、書道部をクッションにせず、直接スイミングクラブなりサッカークラブなりに行けるように緩和されればいいと思う。
教育長	硬式野球をやっていた生徒も陸上部に在籍していた。要は別の部に在籍することで数字上は全員加入となっていたという実態。これが任意加入になれば、学校の部活動には在籍しなくてもよいということになる。 部活動に加入している生徒としていない生徒で下校時刻に差が出てくるという問題が出てくる。そういうこともあって全員加入としていたのかなと思う。
委員	関係あるか分からないが、スポーツ推薦の生徒について分からないことがあるので聞きたい。内申点の付け方について、スポーツは反映されるのか。反映されるのであれば、一生懸命取り組んでほしいし、そのあたりはどうなっているのか。
委員	委員はおそらく9教科の評定をイメージされているのかと思うが、9教科の5段階評定の合計点を私立も公立も入試の材料にしている。一方スポーツ推薦というのは非常に定義が曖昧で、現状をお話すると、私立高校はいろいろな大会などを視察に行き、よい選手がいれば校長の責任で声かけをする。それに対して本人と家族が受けるか受けないかを判断する。公立高校において、スポーツ推薦というのは基本的にない。公立高校においては自己推薦という、自分がこの高校で学びたいという推薦がある。その推薦の際に学校ごとに基準があり、例えば評定が一定以上の点数であったり、中体連の大会で何位以上の成績を収めているであったり、生徒会で主要な活躍をしたであったりといった要件がある。これらをクリアした生徒が自己推薦というかたちで受験することになる。
教育長	私立と公立では違うということだが、心配はスポーツで活躍した生徒には私立からどんどん声がかかり、そうでない子は不利になるのではないかということかと思う。任意加入になれば、例えばクラブチームで出場し、中体連で成績を残すことができるようになる。 来年度は今年度と同じように部活動を実施し、令和5年度で課題について協議していく。つまり現在と同じように、任意加入の中で全員が加入していくというかたちでよいか。
委員	先ほど教育長からあったとおり、任意加入になると、部活動がない生徒は早く下校することになる。となれば下校のスクールバスが2便制にならな

	<p>いと対応できないということになる。今は時期的に3年生のために2便にしているが、通年で2便にするには予算的な裏付けが必要になる。保護者が迎えに来ることもできない場合どうするのかという懸念がある。</p>
教育長	<p>部活動がない生徒はバスの時間まで勉強をすとかそういうことが出てくるかもしれない。そういう問題もあって全員加入としていたのかもしれない。</p> <p>クラブチームに行っていて、保護者が迎えに来ることができる生徒はそれでいいかもしれないが、平日5日毎日クラブがあるわけでないとしたら、クラブがない日はどうするのかという話。それらを含めて6年度からどうしていくかという話を来年度協議していくということではよろしいか。</p>
	<p>(一同賛成)</p>
教育長	<p>では次の種目は部活動からスライドとするか、それ以外の種目も考えるかについて、5年度は従来通りの部活も実施すると考えると種目を増やすのは難しいのではないか。教員も減るのでは。</p>
委員	<p>3名の減。</p>
委員	<p>令和5年度から増やすには周知の時間も無いし、来年度協議して、私個人的には是非文化部の種類を増やしてほしい。来年度については今年度と同様とし、令和6年度に向けて協議していくということではよいのではないか。</p>
教育長	<p>逆に来年度は現在の部活は全てスライドできるのか。</p>
委員	<p>現在の1、2年生の人数で全ての部活を維持できる。</p>
教育長	<p>来年度については現在の部活数でやるということで保護者には伝えていただき、それ以外の種目については来年度の検討委員会で協議していく。次に移行時期はいつごろとするか、もう話題が出ているが、来年度はこのままで、令和6年度からとするのか、あるいは6年度もこのままとなる可能性もあるのか。</p>
委員	<p>他市町の動向をみながらという話もあった。ぎりぎりまで様子を見るべきでは。</p>
教育長	<p>協議は進めながらも、他市町の動向に合わせるということもあるのかと思う。</p> <p>では地域移行の方法については、3つとも来年度へ申し送りということで確認する。</p> <p>(3) 今後の方針について、事務局より説明を御願います。</p>
事務局	<p>資料2について説明する。これは来年度以降の動きについて、部活動別にケース分けして記載したものになる。令和5年度は引きつづき部活動とし</p>

	<p>て実施し、6年度から地域クラブ活動に移行する想定を表となっている。特殊なケースとして、吹奏楽部は現時点で受入れ可能な団体がないため、新庄市子ども芸術学校を参考に、文化系の活動を扱うクラブを新設し、そこで受入れする想定で作成している。</p> <p>2枚目中断の「町内団体で活動可能なクラブ」については、教員の方々に兼職願いを出して引き続き指導していただけたとしたらという要素も加味しながら、受入れ団体、指導者、活動場所など様々な課題から現時点で町内団体のみで活動できる種目と、できない種目に分けている。先ほど委員から文化部活動を増やせればというお話あったが、現時点では難しく、今後考えていかなければならない。</p>
教育長	<p>ご覧いただいたように、大石田町でのロードマップを考えてみたところだが、この通りいくか、7年度からになるかというところ。国では8年度からは休日部活動は地域移行とされている。5～7年度でできるところか始めて、8年度には全部移行となるかと思う。</p>
委員	<p>素晴らしいロードマップでこの通りに進めばいいなと見ていた。部活動単位で保護者会という組織があるわけだが、保護者会が自分たちに当てはまるか、話し合いをする場が必要。</p>
委員	<p>スポーツ少年団関係では、団員が減少しているというのは確かで、スポ少では団員が10名以上いないと、新規では参入できない。剣道（誠剣友会）も、最盛期は50名以上の団員がいたが現在は1桁という現状。他の団も同様と聞いている。他の市町村を見ると、単位団というのはどんどん減少しており、一つの種目を続けるためには一つの団でやっていくのは限界なのかなと感じている。子どもたちに種目を続けさせていくためには、複数の（市町村の）団と一緒にやっていくということも視野に入れなければいけない段階なのかなと思う。大石田町の中だけで見ると、できるできないというのは非常に限られてしまう。地区全体、県全体を見てやっていかなければならないのかなと思う。</p>
教育長	<p>スポーツ推進委員からはどうか。</p>
委員	<p>少子化が一番の問題。団体を伸ばしてあげたいという気持ちはあるが、2～3年は見守るしかないのかなと思う。</p>
教育長	<p>資料にある総合型体力づくりの教室などはスポーツ推進委員が関わっていくのかかなと考えている。</p> <p>吹奏楽部の話なども出たが、文化系の活動について芸文協ではどうか。</p>
委員	<p>文化系では（地域クラブ活動を）昔からやっている。例えば民謡では親が自分の子どもに習わせたいと思えば、遠い場所でも通わせて先生に師事す</p>

	<p>る。書道なんかも塾がある。文化系が昔からやっていることを、どうやって体育系にモデル化していくかということだと思う。</p>
教育長	<p>芸術・文化では土日に子どもたちが民謡や書道をしたいとなったら受入れや、指導者の紹介を御願ひしていくことになる。</p>
委員	<p>そうしていかなければいけないと思う。活動を広げていかなければならない。</p>
教育長	<p>方向性が見えてきたかと思う。 東根市ではできるところからやるということだった。野球を始め、運動部は合同部活動を進めていく。来年度からするかもしれないということだった。 小学校ではどうか。</p>
委員	<p>小学校統合の話も進んでいるが、統合後でも少ない学年は20人程度。これが中学校に進学するとなると、いずれは中学校全体で60人とかいう状況も考えられる。そうなったらもう北村山で野球の大会なんてできなくなる。今は過渡期なのかなと考えている。協議は進めながらも、他の市町の動向を注視し、大石田はそれを後追いする形でもいい。 将来的に任意加入制になると、生徒はそれぞれ自分の興味関心を伸ばしていくのかなと思っている。</p>
委員	<p>小学校ではスポーツで活躍することを夢見ている子どももいるが、例えば小学校ではスキー大会があるが、中学校ではないように、その場がないこともある。どうなっていくのがいいのか、まだ自分の中でもまとまっていない。</p>
委員	<p>全員加入か、任意加入かというのは非常に大きな問題だなと受け止めていた。現状は任意加入を前提とした全員加入だということだが、任意加入であるというなら、子どもたちは自分の志向に合った種目を選んで学ぶことになる、地域の子どもは地域で育てるという観点から、町内で受入れ可能な種目はできるだけ受入れしていく、だが小さな町であるので子どもたちの全ての志向に応えることはできない、任意加入というなら子どもたちの希望をどうやって叶えていくのか、これが問題だと思う。 これまで部活動は、教育手法の一つとして学校の根幹の一つであったが、これを外していかざるを得ない。中学校の教育システムも変わっていかざるを得ない。これまで部活動が担っていた、人格を育成する部分を削っていかなければならない。中学校ではこれからできるだけソフトランディングしていかなければいけないのかなと思ひながら聞いていた。 できるだけ地域で受け皿を作っていかなければならないと考えている。</p>

教育長	<p>貴重なご意見をいろいろいただいた。ロードマップについては、保護者会などで今後話し合いを進めていくための一つのたたき台として見ていただければと思う。</p> <p>②令和5年度の動きについて事務局から説明する。</p>
事務局	<p>②令和5年度の動きについて説明する。令和5年度については、いくつかのタイムリミットがある。一つが来年度の県中学校総体。先日北村山中体連を担当されている先生から説明があり、令和5年度の大会から、クラブチームの参加を認める方向で緩和される見込みとのことであった。そこで懸念として挙げられたのが、各市町をまたいだ強い選手を集めたチームのようなものが作られた場合、勝てるチームに入りたいと今張っている部活動と違うチームに所属を希望する生徒が出てくる可能性がある。現在大会出場へは、各自治体から補助金などが出ているが、それらの扱いを5年度の大会までには決めてほしいとのことだった。これが一つ。</p> <p>もう一つは、先ほどバスを2便制にするためには予算の裏付けが必要という話があったが、令和6年度から何らかの動きをするためには、6年度予算が決まる前に方向を決めなければならないため、遅くとも11月あたりまでには、令和6年度の動きについて決めておく必要がある。</p> <p>来年度については、このあたりを気に留めながら協議を進めていただければと思う。来月にでも来年度のスケジュールと協議する内容を確認させていただき、4月からはこの準備委員会のメンバーを拡大した検討委員会として会議を開催させていただき、より個別具体的な課題について協議させていただく予定である。</p>
教育長	<p>年度内にもう1度会議があるということでよいか。</p>
事務局	<p>2月下旬にもう1度開催させていただきたい。</p>
教育長	<p>(4) その他について事務局より説明する。</p>
事務局	<p>先ほど委員からも報告いただいたが、保護者の方々から地域移行に関する町の動きが見えてこないという声をいただいている。他の市町ではどうしているのか調べたところ、地域移行に関するおたよりを発行しているようだった</p> <p>御協力いただいたアンケートの結果を返す必要もあるので、現在の状況や、協議の概要などをお伝えする広報誌を作成して配布したい。小中学校には配布の手間を御願ひすることになる。</p>
教育長	<p>保護者の方々には、部活動地域移行の意義、来年度は今年度同様に部活動ができるということをお知らせする必要がある。そのためにこういうことをするんだというのを、アンケートの結果を交えて配布する。</p>

	いつ配布するか。
事務局	アンケートの結果もあるので早めに配布したい。
委員	保護者というのは小中学校の保護者か。
事務局	小学校4～6年からもアンケート協力いただいているのでその保護者。
委員	私見だが、受け皿づくりの時に中心になるのは志のある若い人たちだと思う。小学校の生徒も数年後には中学生となり、自分のことになる。広く町民に知らせて、意欲を喚起していくことが必要なのではないか。
教育長	保護者という話が出たが委員どうか。
森委員	委員の意見に賛成する。若い人で意欲がある人はたくさんいる。公費で補助するなどして、活動しやすい環境を整えてほしい。
教育長	指導者となる人への喚起は必要だ。全生徒に加えて町民に対しても、町報などで状況を知らせていくことが必要ではないか。
事務局	おたよりは全小中学生とその保護者へ出し、町広報誌で町民へも地域移行について、一度だけではなく何度かお知らせしていく。
教育長	補助についても、町長に今後必要になっていく旨、話をしている。
委員	広報誌については是非御願います。私も先日の会議でまったく知らないと言われたので、PTAの会報に地域移行について寄稿した。いろいろなところでお知らせして、こんな課題があるからみんなで解決していきましょうとしていく必要がある。 3市1町平等にという話があったが、本音を言えば町にしっかりとした予算をつけていただき、指導にプロ選手を招き、「大石田でならプロに指導を受けられる」「じゃあ大石田の小学、中学校に通わせようか」と言われるような特化したやりかたもあるのではないか。
委員	市が全面的にバックアップして、「これが市のスポーツだ」とPRしている自治体もある。そうするとそのスポーツをしている子どもが全国から集まってくる。そういう事例もある。
教育長	将来的な町のランドデザインにおけるスポーツクラブをどうしていくかという中でそういう考えもあるのかなと思う。
事務局	委員のみなさまには多くの意見をいただき、深く感謝する。いただいた意見をまとめて2月下旬にもう一度会議を持つのでよろしく御願います。 以上で第2回部活動地域移行準備委員会を閉会する。ありがとうございました。